

製品名: CaMKII ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe87614**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:1000-1:2000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:20-1:100,FC 1:20-1:100
分子量	Calculated MW:54 kDa; Observed MW:54 kDa

抗原情報

遺伝子名	CaMKII
別名	CAMKA
遺伝子ID	815
SwissProt ID	Q9UQM7
免疫原	ヒトCaMKIIの合成ペプチド

背景

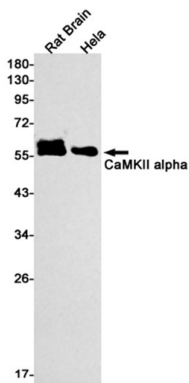
この遺伝子産物は、セリン/スレオニンプロテインキナーゼファミリー、およびCa(2+)/カルモジュリン依存性プロテインキナーゼ

プファミリーに属する。カルシウムシグナル伝達は、グルタミン酸シナプス可塑性のいくつかの側面において極めて重要である。このカルシウムカルモジュリン依存性プロテインキナーゼは、 α 、 β 、 γ 、 δ の4つの異なる鎖から構成される。この遺伝子によってコードされる α 鎖は、海馬の長期増強（LTP）と空間学習に必須である。このタンパク質は、カルシウムカルモジュリン（CaM）依存性活性に加えて、自己リン酸化を受けることでCaM非依存性活性を示す。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする2つの転写バリエーションが同定されている。[RefSeq 提供、2008年11月]

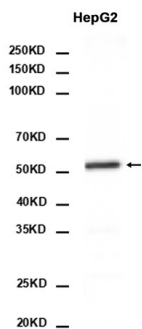
研究分野

-

画像データ



CaMKII アルファ抗体 (1:1000 希釈) を使用したラット脳、Hela 細胞溶解物中の CaMKII アルファのウェスタン ブロット検出。



AMRe87614 を 1:2000 で使用して HepG2 細胞抽出物をウェスタン ブロット分析しました。